新技術の活用等について（門型標識・門型道路情報提供装置編）

本計画は、神奈川県道路施設長寿命化計画の「Ⅰ　基本事項編」及び「Ⅴ　門型標識・門型道路情報提供装置編」に基づき、新技術の活用等について検討します。

４．４　新技術の活用等

道路施設の点検や修繕等の実施にあたっては、国土交通省の点検支援技術性能カタログ（案）や新技術情報提供システム（ＮＥＴＩＳ）などを参考に、新技術等の活用を検討し、コスト縮減や事業の効率化等を図ります。

また、道路施設の点検結果や利用状況などを踏まえ、必要に応じて施設の集約化・撤去を検討し、維持管理のコスト縮減を図ります。

神奈川県道路施設長寿命化計画「Ⅰ基本事項編（Ⅰ-15)」より

○　令和 13 年度までに、管理する門型標識・門型道路情報提供装置のうち３施設で新技術を活用し、従来技術を活用した場合と比較して約２百万円のコスト縮減を目指します。

○　管理する門型標識・門型道路情報提供装置について、いずれも主要な幹線道路の安全と円滑を図る上で必要な施設で、集約化・撤去が可能なものはないが、利用状況の変化などを見ながら、必要に応じて施設の集約化・撤去の検討を進めます。